

休眠 2022 事業「立ち直りを支える地域支援ネットワーク実践報告会」

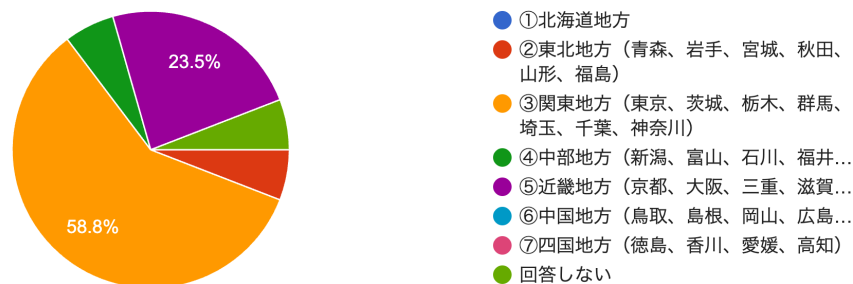
参加者アンケート結果まとめ

報告会開催日時：2026 年 2 月 20 日 13:00～15:00 / 開催方式：オンライン（zoom）

参加者数・回答率：参加者 25 名中、17 名からの回答（回答率 68%）

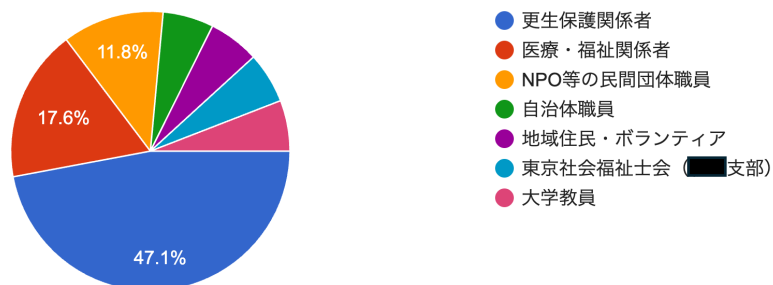
Q1. お住まいの地域を教えてください。

17 件の回答



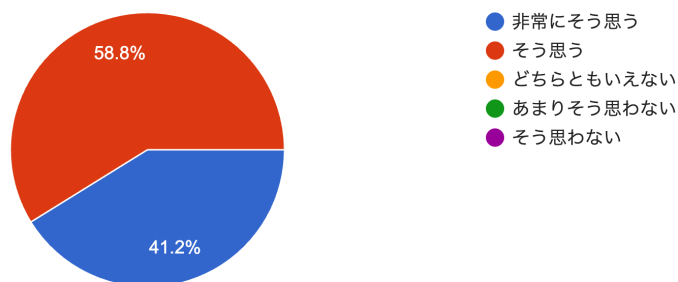
Q2. あなたの主な立場・ご所属を教えてください。

17 件の回答



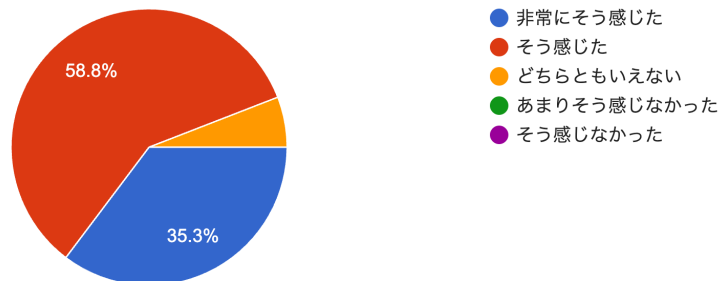
Q3. 本報告会を通じて、地域支援ネットワークづくりについて新たに考えるきっかけになりましたか。

17 件の回答



Q4. 発表内容を、あなたの周囲の関係者に共有したいと感じましたか。

17 件の回答



Q4-1.【Q4 で「非常にそう感じた」「そう感じた」と回答した方へ】

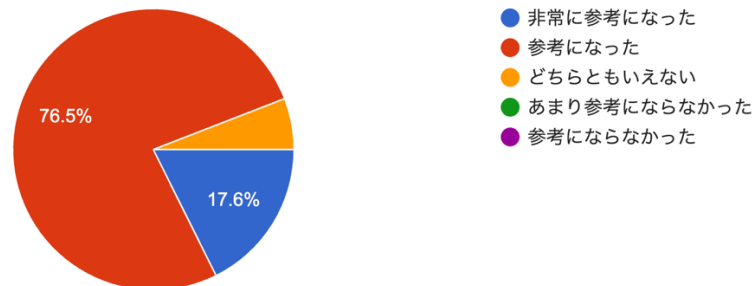
具体的にどういった内容を誰と共有したいと思いましたか。(任意)

12 件の回答

- ・ 居場所を単なる場づくりではなく、地域の関係性を編み直していくプロセスとして設計されている点を、私の所属団体のスタッフにも共有したいと感じました。特に、開放性と安全性のバランスをどのように試行錯誤してきたのかという点は、今後の事業設計にも大いに参考になる内容でした。
- ・ ○○(回答者の所属先)のメンバー
- ・ 具体的な事例について
- ・ 地域との接点を作る難しさ、多様な対象者への支援は社会の理解が進まないと流れが変わらない
- ・ 当協会の関係者に滋賀県更生保護事業協会のネットワーク作りの活動内容を、当協会が助成する○○県内の保護司会、更生保護女性会、BBS会、更生保護施設等に白光荘、わかくさねっと、ジャパンマック福岡の活動内容を共有したい。
- ・ 活動内容報告した後の課題やこうした方が良かったという反省が学びになった。
- ・ 市町単位の地域活動の継続からの果実、変容、波及効果などは、保護司組織が現在行っている地域活動との関連性(ブラッシュアップ)につながることも多いと感じ、共有したいと感じました。
- ・ ○○○総務課、○○○保護司会など
- ・ 更生保護施設と子供などの地域住民との関係づくり
- ・ 更生保護の活動が、地域に広がりつつあること
- ・ 保護司会にも属していますが、「ご本人主体」「ご本人への伴走支援」という考え方はなかなか浸透していないように感じている。守秘義務に守られて、各保護司にどれほど対象者が担われているかなどの情報はまるでない。そんな保護司の役割の現状と限界を知ってもらった方が良く感じている。
- ・ 東京社会福祉士会の活動が他の更生保護施設に役立つ情報であったから。

Q5. 本報告会の内容は、あなたの活動領域で目指すネットワーク形成のイメージや、そのための活動を考えるうえで参考になりましたか。

17 件の回答



Q5-1. あなたの活動領域でどのようなネットワークや活動ができそうだと感じましたか。(任意)

14 件の回答

- ・ 福祉の枠に囲い込むのではなく、地域の豊かな関係性の中に開いていくネットワーク形成のあり方が参考になりました。専門職だけで完結させず、多様な関係者と緩やかにつながる仕組みづくりを進めていきたいと感じました。
- ・ 本願寺さんのネットワークの広げ方など参考になりました。
- ・ 居場所を通じたネットワーク形成
- ・ 東京の社会福祉士会の方々の賛同意識などから滋賀県内の社会福祉士の方々との連携がもっととれるのではないかと思います
- ・ 地元で自分にできることを進める場があれば支援してみたい
- ・ 更生保護について知識のある方と繋がりたい。
- ・ 具体のイメージはありませんが、何らかの新規の活動ができたらと思います。
- ・ これまで行ってきた居場所事業の継続について
- ・ 「固定された定期的な場所がある」ということの大きさを感じました。
- ・ 助成金事業で構築したネットワークの継続
- ・ 社会福祉士会の活動
- ・ 今後、少しずつでも活動の幅を広げられるよう進めていきたいです。
- ・ 保護司会
- ・ 地域で TS ネットワークの活動に取り組んでいる。特に司法~警察関係とはよくつながりたいと考えている。

Q6. 本報告会を通じて考えたことやご意見があればご記入ください。(任意)

11 件の回答

- ・ 津富先生がおっしゃっていた、居場所は、単に人が集まる場ではなく、何をもってつながるのか、何を大切にするのかを定める必要があるという言葉が心に刺さりました。団体で行なっている居場所事業スタッフと一緒にもう一度考えていきたい大事な点だと思いました。ありがとうございました。
- ・ 支援という立ち位置での活動がまちづくりや県内交流で地域の活性化ができているんだと再認識しました。
- ・ 当初の活動計画を事業を進めながら活動団体が苦勞していたことがとても良くわかりました。休眠預金活用事業の終了後にどの様に持続可能な動きになるのか？今回の成果を他の支援団体にどう活かせるのかとても気になりました。
- ・ 人間を大切にしたい意識のある人を探す。
- ・ 熱心に活動されている団体の実状を知り、感銘を受けました。
- ・ ありがとうございました。団体の皆さんがおそらく最初は暗中模索でどこにたどり着くのかかわからない中で活動されていたと思いますが、気付きや学び、波及効果、今後の展望も含めて何かしら見えてくるためにはやはり3年という年数が最低必要なのだろうと思いました。新規の事業の場合3年ではスタートアップ支援のため、模索と試行を繰り返して芽吹いてやっと軌道に乗ったところで事業が終わり、頓挫する団体もあると思うともったいないと。全事業ではないにしても、必要性を審査した上で事業終了後も支援を継続できる仕組みがあると良いと思いました(例えば事業終了後のアフターフォロー助成など休眠の枠であると(低率でも一部資金提供や伴走支援経費など))
- ・ 助成金は新たな活動のきっかけになる
- ・ 皆様の活動の一端を見ることができて非常に参考になりました。ありがとうございました。
- ・ ものごとを軌道に乗せるには3年の期間が必要だと感じた
- ・ 東京社会福祉士会にはよく協力していただいて感謝している。
- ・ (1件は事務局への個人通信的内容であったため公表は控える)